

つしま医療福祉グループ、江別市及び北海道との「共生型地域づくりの推進」に関する連携・協働の概要

区分	概要等
事業名等	<p>「<b>つしま医療福祉グループ、江別市及び北海道による「共生型地域づくりの推進」に関する協定</b>」(つしま医療福祉グループ・江別市・道)</p> <p>(参考呼称) (江別市：江別版「生涯活躍のまち」構想) (つしま医療福祉グループ：江別市生涯活躍のまち整備事業)</p>
コンセプト(趣旨)	<p>＜3者が相互に連携・協働して目指すもの＞</p> <p>➢ 子どもや若者、障がいのある方、高齢者など多様な主体が交流し、<u>住み慣れた地域で、生涯にわたり安心して心豊かに暮らすことのできる「地域共生社会」を実現</u></p> <p>＜連携・協働の概要＞</p> <p>➢ 江別市大麻地区に展開する「生涯活躍のまち」を共生型地域づくりの全道モデルとして、そのノウハウや仕組み、成果等を道内各地域が享受できるよう、<u>3者が相互に連携・協力して様々な施策や事業等に協働して取り組む。</u></p>
道の位置付け(協働の考え方)	<p>○ 道においては、「北海道地域福祉支援計画」(平成30年3月策定)の下、<u>子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れた地域で安心して心豊かに暮らすことのできる「地域共生社会の実現」を目指しているところ。</u></p> <p>○ こうした中、<u>本事業は、地域において民間事業者と市町村とが連携・協力しながら、地域共生社会づくりを進めるとともに、そのモデル化と全道域への波及・地域享受に向け、様々な施策や事業を協働実施するもので、これらに際し、道の知見やマンパワーを活かした実働支援(協働)の要請があったもの。</u>  <u>こうした要請を受け、道としても、当該計画の下、本来業務として、これらの地域活動を実働支援する必要があるもの。</u></p>
主な協働の手法	<p>① <u>3者による協働実施協定の締結</u> (つしまG・江別市・道)</p> <p>② <u>人事交流</u> (つしまGと道(保健福祉部))</p> <p>③ 「<u>生涯活躍のまち開設準備本部会議・同会議プロジェクトチーム</u>」(つしまG設置)への参画 (江別市・道)</p>

＜具体的な主な展開事業(予定)＞

<p><b>①「地域交流拠点施設」の整備</b></p> <p>* 温泉入浴施設、地域交流スペース、パン工房：障がい者就労継続支援 A 型事業所、ふぐの里：レストラン等、地域交流の拠点。</p>	<p><b>②「交流農園」の整備</b></p> <p>* サービス付き高齢者住宅・障がい者グループホーム・介護施設の入所(居)者や地域住民の方々等の交流の場</p>	<p><b>③「パークゴルフ場」の整備</b></p> <p>* 左記②同様の方々等の交流の場</p>
<p><b>④「特別養護老人ホーム」の整備</b></p> <p>* 入所者個々の能力に応じた生活支援の場</p>	<p><b>⑤「介護老人保健施設」の整備</b></p> <p>* リハビリテーションと在宅復帰時のケアプランを重視した在宅強化型の支援の場</p>	<p><b>⑥サービス付き高齢者向け住宅</b></p> <p>* 高齢者が住み慣れた土地で、生涯安心して住み続けるための生活の場</p>
<p><b>⑦障がい者の就労訓練に向けたグループホームの整備</b></p> <p>* 高等養護学校を卒業後、一般就労に結びつかない方などの生活の場。敷地内の介護施設等での就労により介護技術を習得してもらい、地元の施設等での一般就労を支援。(介護人材の確保)</p>	<p><b>⑧「保育所(企業主導型保育事業)」の整備</b></p> <p>* 上記施設等の職員の児童を保育するほか、定員の一部を活用して、地域の保育ニーズにも対応する場</p>	<p><b>⑨看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備</b></p> <p>* 退院直後の在宅生活移行にリハビリが必要な者や看取り期、病状不安定期の在宅生活継続者など、利用者ニーズに合わせた「通所」・「訪問」・「宿泊」サービスをフレキシブルに提供する場</p>